

平成6年度
(1994)
第34回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

帯広市内に適当なテニスコートがなく、帯広緑陽高校のお骨折りで、リゾートとして有名なサホロリゾート内のテニスコートをお借りして大会の開催に漕ぎ着けることができた。立派な宿泊施設に参加した生徒にとってはとても印象深い大会になったと思う。関係各位に、心からお礼申し上げたい。

初日は霧雨となり、コートが滑る状態の中、大会は半日遅れで始まった。男子団体戦は、予想通り札幌藻岩高校の圧勝で終わり、全国レベルの力を見せつけた。第2位に入賞した札幌開成高校、第3位に入賞した苫小牧東高校の健闘が光る大会であった。

女子団体戦は、初優勝を密かに狙っていた函館白百合高校は、準決勝で札幌新川高校に敗れたが3位に入賞した。

優勝した札幌清田は実力通り全道高校女子の頂点にあり、団体戦では、他を寄せ付けない実力と実績を持っている。第3位入賞の旭川凌雲高校も地力をつけており、近い内に全道の頂点に立つことができるチームである。

個人戦は札幌勢が圧勝し、ベスト4をすべて独占した。

男子ダブルスは、吉川・藤原組（札幌藻岩）に対し、山田・高松組（札幌藻岩）が札幌地区大会の雪辱を果たし優勝した。2組とも全国レベルにあるものの全国大会へは1組しか参加できないことが残念である。

男子シングルスは、札幌藻岩高校勢の圧倒的な強さの中で、奥野（札幌新川）が全国高校選抜アメリカ派遣チームのメンバーとして参加し力をつけてきた山田（札幌藻岩）を倒し、全道2連勝をなしとげたのは立派の一言につきる。ベスト4に札幌藻岩高校が3人入っており、層の厚さを強烈に印象づけた。

女子ダブルスは、第1シードの本田・後藤組（札幌稲西）が、高崎・小笠原組（東海大四）に負けるという番狂わせがあり、地力を優る佐藤・平野組（札幌清田）が優勝した。ダブルスの旨さに定評のある札幌清田高校が優勝と3位を制したのは立派である。

女子シングルスは、本田（札幌稲西）が全道3連勝という前人未到の離れ技に成功した。

小柄ではあるが、鋭いラケットの振り、高い打点、チャンスボールを逃さない等々、テニスのセンスに恵まれており、素晴らしいテニス感覚をも身につけており特筆される。2位に入賞した高崎はまだ1年生であるが、来年度はシングルス優勝候補の筆頭である。

【 全国大会 】

札幌藻岩高校全国3位。

男子団体戦に出場した札幌藻岩高校は、一昨年、昨年と全国ベスト8位入りした実力をより一層発揮し、悲願ともいべき全国第3位に入賞した。3年生の山田雅之、2年生の吉川真司、高松伸吾、藤原巧貴、伊藤剛5人の健闘は、北海道高校テニス界の歴史に特筆すべき慶事である。

全国大会におけるベスト8位の厚い壁、更に一層厚いベスト4位の壁を破った札幌藻岩高校の健闘は誠に素晴らしいものである。照り返しのあるテニスコートでは連日40℃を越える炎天下、暑さとの闘いは死にもの狂いと評しても過言ではない状態のもとでの試合であった。

第2回戦で対戦した佐野日大（栃木）には、ダブルスで少し苦戦したもののシングルスは圧勝し、3対0で初戦無事突破。

第3回戦の洛東（京都）は全国のトップレベルにある福田を擁し、苦戦が予想されたが、ダブルスと第2シングルスで乗り切った。

第4回戦（準々決勝）の浦和学院（埼玉）は、第4シードの日大三島（静岡）を破って勝ち上がってきた。全国ベスト8の常連である浦和学院に対し、札幌藻岩はダブルスと第2シングルスを連取してベスト4を決めた。

第5回戦（準決勝）の堀越（東京）は、本大会のシングルス優勝の鈴木貴男、準優勝の石井弥起を擁する強豪であり、善戦したが力及ばず敗退した。団体優勝した堀越の鈴木貴男は本道出身で、個人戦のシングルス・ダブルスと併せて3冠に輝いた。

女子団体戦に出場した札幌清田高校は第2回戦で和歌山商（和歌山）に3対0で圧勝した。

浦添（沖縄・本大会第3シードで準優勝）と対戦した第3回戦では、札幌清田のダブルスが頑張った。井上姉妹のシングルスには歯が立たず敗れたものの立派な健闘ぶりだった。

個人戦でもよく善戦し、男子シングルスに出場した3人とも第3回戦（ベスト32）まで進み、北海道のレベルの高さを示した。2年生の高松（札幌藻岩）は4回戦（ベスト16）まで進み、来年度の全国大会出場枠1増のボーナスポイントを獲得した。

男子ダブルス出場は1組ではあったが、山田・高松組（札幌藻岩）がベスト8に入る健闘で来年度の全国大会出場枠1増のボーナスを稼ぎ、北海道高校テニスのレベルの高さを全国に訴えた。

女子シングルスも本田（札幌稲西）が3回戦（ベスト32）へ、ダブルスの佐藤・平野組（札幌清田）も3回戦（ベスト16）に進出し、“北海道強し”を全国にアピールした。

（ 専門委員長 横山 俊之 ）

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

北海道高等学校体育大会（全道大会）の団体戦を終えて、僕達全員が一致団結していることに改めて気付かされました。なぜかと言うと大会期間中、みんなが一つとなって、戦いの一試合一試合に、誰もがまるでプレーしている選手のように、相手校の選手達と戦っているからです。ですから、どんな高校が出てきても少しも怖くありませんでした。

優勝が決まった瞬間、みんなは、嬉しいというよりは、ほっとしたという気持ちが多かったと思います。なぜなら藻岩高校のテニス部は、少し言いすぎかもしれませんが、勝つあたり前という立場にあったからです。団体戦というものは何が起こるかわからないものですから、どの試合も気を抜くことができず、優勝した時に、やっとみんなの緊張の糸が切れた感じになったのも一つにあります。

僕達の学校のテニス部の目標は、全国にしているもので、優勝したからといって浮かれないで、これを一つステップとして、これからの練習に生かしてゆき、全国では自分たちの力が遺憾なく発揮できるようにするために、みんなが、さらに一層一つとなって頑張っていく必要があります。

最後に、この全道大会を見ていた後輩達が、これを彼らの勉強材料として、これからのために大いに活用して、僕たちを超えるように強いチームに作り上げてもらいたいです。

（ 札幌藻岩高校 主将 山田 雅之 ）

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

・・・・自分達が今できることを一生懸命頑張り通し、協力し合うことができた選手のみなどと、当日ベンチに入って手をたたいて声援して下さった先生、全道大会前に毎日練習を見てくださり、帯広まで応援に駆けつけて下さった先輩や親達、縁の下の力持ちとなって、部の雰囲気盛り上げてくれた後輩達・・・・

このような“清田持ち前のチームワーク”の結果が全道優勝につながり、とても嬉しく思います。

私達はテニスを通じて、技術的なことは勿論、精神的なことや人間関係などの、たくさん事を学ぶことができました。そのテニスに打ち込むことができたのも、親の理解や協力があつたからですし、何より、こんな初心者集団の私達を毎日熱心に指導して下さり、私達の気持ちをいつも前向きな方向に引っ張って下さった緒方先生、本当にどうもありがとうございました。

8月の初めに、富山県で行われた全国大会では、団体戦でベスト16に入ることができました。この3年間の経験を無駄にせず、自分達の自信としていけるようにこれからも頑張っていきたいです。

3年間、毎日コートでテニスができること。いつも先生が見ていた下さること。当たり

前のことのように、実はどれほど素晴らしいことなのかということ、今は心でかみ締めています。清田でテニスができることに感謝の気持ちでいっぱいです。

(札幌清田高校 主将 佐藤 公美)

全国高校総体（第84回全国高等学校庭球選手権大会） 富山

8月1日～7日 富山県岩瀬スポーツ公園庭球場

男子 個人戦シングルス	優勝	鈴木 貴男（堀越）
	準優勝	石井 弥起（堀越）
女子 個人戦シングルス	優勝	浅越しのぶ（園田学園）
	準優勝	井上 青香（浦添）